

(学校番号097) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【徳力小学校】

① 4月28日 目標・策		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「知識・技能」において1pt向上させる。国語・算数の自校テストで「知識・技能」に関する平均正答率を1学期比105%以上にする。	⇒ 書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリを活用し、一人ひとりの課題に合った内容に繰り返し取り組む。一人1台端末を活用した児童主体の「さいたま市『アクティブラーニング』授業」を行う。
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。国語・算数の自校テストで「思考・判断・表現」に関する平均正答率を1学期比105%以上にする。	⇒ 一人1台端末を活用し、思考を可視化し、互いに考えを伝え合うことで、比較・検討する協同的な学びの場を設定する。特にミラリッシュを活用し、児童の作品・レポートを相互評価したり、考えを共有したりすることによって、思考力・判断力・表現力を高めていく。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査【学びに向かう力等】における「国語の学習は好きですか。」「算数の学習は好きですか。」の肯定的な回答の割合を令和3年度より1pt以上向上させる。	⇒ 魅力ある授業を行うことによって、児童の「わかった・できた・楽しい」を引き出す。魅力ある導入をし、児童とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、授業中に必ず振り返りの時間を設定する。

③ 9月1日 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

② 8月31日 全国学力・学習状況調査結果	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>国語では、「A話すこと・聞くこと」は全国平均を超えた。「さいたま市『アクティブラーニング』授業」を実践することにより、他の児童の考えや意見を聞いたり、自分の考えや意見を話したりする技術が向上したと考える。「B書くこと」は、苦手意識があり無回答率も高く課題である。普段の学習から自分の意見をまとめて「書く」時間を多く確保していく。</p> <p>算数では、各領域で全国平均とほぼ同じであった。しかし、「図形」の領域に課題が見られる。プログラミングの思考も必要な問題だったためか、無回答率も他の領域の問題よりも高い傾向があった。プログラミングの思考を高めていくために、どのような組合せが必要か、どのように改善していけば、より意図した結果に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力を普段の学習に取り入れていく。</p> <p>理科では、「理科の勉強は好きですか」という質問に対し、92%の児童が肯定的な回答をして、全国平均を大きく超えている。理科の学習は好き・楽しいと感じているが、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価の観点では、課題が見られる。主体的に学習に取り組む素地は育っている一方で、一人ひとりの課題に合った内容に繰り返し取り組み、知識等を定着させる取組を行っている。また、授業において思考力、判断力、表現力等を高めるために、既習の学習事項と関係付けさせたり、仮説や実験方法と実験結果との一致や不一致を検討させたりする取組を多く行っている。</p>	

④ 2月28日 さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	R4年度さいたま市学習状況調査において、国語算数ともにさいたま市の平均を下回った結果であった。特に国語では、「話すこと・聞くこと」の領域、算数では、図形の領域に大きな課題があった。「〇〇の勉強は好きですか。」の学びに向かう力等を見る質問に関して、肯定的な回答は市の平均を下回った。	小4	R4年度さいたま市学習状況調査において、国語算数ともにさいたま市の平均を下回った結果であった。領域別に見ると、国語の「読むこと」に関しては、市の平均を約20p上回った。算数では、「変化と関係」で市の平均を5p上回った。しかしその他の領域では課題が見られる。学びに向かう力等を見る質問に関して、肯定的な回答は市の平均を下回った。
小5	R4年度さいたま市学習状況調査において、国語算数ともにさいたま市の平均を下回った結果であった。特に国語では、「書くこと」の領域、算数では、「数と計算」の領域に大きな課題があった。「〇〇の勉強は好きですか。」の学びに向かう力等を見る質問に関して、ほとんどの教科で肯定的な回答は市の平均を上回った。特に理科は100%であった。	小6	R4年度さいたま市学習状況調査において、国語算数ともにさいたま市の平均を下回った結果であった。特に国語では、「情報の扱いに関する事項」の領域、算数では、「データの活用」の領域に大きな課題があった。「〇〇の勉強は好きですか。」の学びに向かう力等を見る質問に関しては、理科において肯定的な回答が市の平均を上回った。

⑤ 2月28日 成果指標に対する達成状況			評価(※)
知識・技能	R4年度の全国学力・学習状況調査「知識・技能」において、R3年度全国学力・学習状況調査より国語+4.1p、算数+6.0pであった。全国平均は下回った。国語・算数の自校テストで「知識・技能」に関する平均正答率は1学期比109%であった。		A
思考・判断・表現	R4年度の全国学力・学習状況調査「思考・判断・表現」において、R3年度全国学力・学習状況調査より国語+7.8p、算数+3.9pであった。全国平均は下回った。国語・算数の自校テストで「思考・判断・表現」に関する平均正答率は1学期比114%であった。		A
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査【学びに向かう力等】における「国語の学習は好きですか。」「算数の学習は好きですか。」の肯定的な回答の割合は、令和3年度を下回る結果であり、目標を達成することはできなかった。		D

⑥ 2月28日 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的に、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題が見られる。また、その中でも個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。「スタディサプリ」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活かす方法を検討していきたい。また次年度に向けた改善策としては、国語の「話すこと・聞くこと」の領域に、学校全体として課題が見られることから、研修を通じ、全学年で重点的に取り組んでいきたい。
思考・判断・表現	算数の「図形の意味や性質を基に、図形の要素に着目し図形の構成の仕方について考察し記述できる」や「示された作図の手順を基に図形を構成する要素に着目し、目的の図形であることを判断できる」などに課題が見られたため、「なぜ?どうして?そうなった?どこからそう考えた?」などを意図的に問い、根拠を明確にする活動を多く取り入れていき、プログラミング的思考力や論理的思考力を高めていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年生の「コンピュータを活用して、学習内容の理解度や、興味・関心に合わせて学習することができました。」の質問項目において、肯定的な回答の割合がどちらの学年も高い結果となった。この結果を維持するとともに、系統性を踏まえ1~4年生においても、ICTを活用した振り返りの実施や記録の蓄積を図り、主体的に取り組む態度を育てていきたい。

※評価
 A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
 B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)